

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月書面実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎基本を踏まえて発展的に学ぶことができる教科指導を充実させ、「学び直しとしての学力」「上級学校において役立つ学力」「社会の中で自ら生きていくために必要な学力」を定着させる。</p> <p>②「学びの場」としての定時制総合学科の意義を自覚させ、一人ひとりの生徒が主体的に参加する授業を展開する。</p>	<p>①単位制のシステムを活用した多様な生徒のニーズに応える教育課程を確立させるとともに、よりよい学習環境を整える。</p> <p>②基礎学力を定着させ、規範意識の育成と学習習慣を確立させることで、出席率の向上と積極的な授業参加を支援する。</p>	<p>①新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の確立を図る。グループ間で連携し、授業規律を徹底させる。</p> <p>②指導主事を招いた研究授業等を実施し、生徒の多様な状況やインクルーシブ教育の視点を取り入れた学習指導の充実を図るための組織的な授業改善を継続する。プログレスHRを活用し、基礎学力の定着と学習習慣を確立させ、出席率を高める。</p>	<p>①授業規律を徹底し、よりよい学習環境を整備することができたか。</p> <p>②生徒が主体的に学び、発信する場を設定することができたか。生徒の言語活動が充実したか。出席率の向上と積極的な授業参加を促進することができたか。</p> <p>プログレスHRを活用し、基礎学力の定着と学習習慣を確立させることができたか。</p>	<p>①コロナ禍における臨時休業中は、生徒への諸連絡や学習課題の内容の周知にClassroomを活用し、オンラインによる学校と生徒との関係づくりを構築した。授業再開後は、教員間で授業規律を徹底し、基礎的・基本的な学習の充実と、Chromebookを活用した資料読解・演習等の発展的な授業展開を実践した。</p> <p>②コロナ禍での授業の在り方を教員間で問い直し、生徒の基礎学力の定着と「学びの場の再発見」を促した。研究授業・授業観察を行い、生徒のニーズを踏まえた発展的な授業に取り組んだ。また、プログレスHRを実施して、生徒の基礎学力を底上げし、学び直しを充実させた。</p>	<p>①Classroom について、生徒のパスワード管理や学校からの情報に対する受信意識の希薄さが課題である。Classroomの活用更なる常態化が必要である。授業規律については、生活指導Gとの連携と各教員の取り組みにより、徹底することができた。今後も継続して取り組む。</p> <p>②基礎学力の充実の反面、言語活動など発展的な学習の実施は不十分であった。教員と生徒、生徒相互の信頼関係を構築しつつ継続して取り組みたい。プログレスHRは学力の底上げと学習習慣の確立を目的に、時間割に組み込むなど更なる改善が必要である。</p>	<p>・オンライン学習の充実に期待する。</p> <p>・プログレスHRの検証はいかがか。継続・発展に期待する。</p> <p>・「生徒による授業評価」の結果、全ての項目で高くなっていることは素晴らしいことである。</p> <p>・コロナ禍でクラスルームやクロムブックを導入し、連絡体制や授業展開を進めたことは評価できる。この成果をタブレットやリモートを活用した新しい教育活動に活かしてもらいたい。</p> <p>・授業改善を組織的・計画的に進めていることやプログレスHRで基礎学力の向上を図る取組を行っていることは、総合学科としての特色を打ち出す有効な取組である。</p> <p>・授業評価は生徒の素直な感想や要望が具体的に出されており好ましい。授業改善に活かしてもらいたい。</p>	<p>①オンライン学習について、多様なアプリ等を用いた授業展開の在り方については未だ試行錯誤の段階にある。</p> <p>②プログレスHRについては、生徒の基礎学力の底上げというメリットは認められるが、実施時間帯(SHR)における出席率について課題を残した。Classroomを活用した生徒への連絡は、効率性向上の反面、閲覧率に課題が認められる。</p> <p>授業改善については、改善週間を設けて、教職員への啓発と実践に努めたが、組織的な研究授業を実施することができなかった。</p>	<p>①主体的、対話的で深い学びの実践に向けたオンライン学習の在り方やその手段としてのアプリ等の教員間での共有を進める。</p> <p>②プログレスHRは令和3年度より始業前授業に位置付け、一層の基礎学力の定着を図る。生徒のClassroomへの意識の定着を進める。授業プリントや諸連絡などの送信について、教科担当者や他グループとの連携を重ねていく。生徒による授業評価の結果を真摯に受け止め、教科・科目での分析し、新学習指導要領を見据えた授業改善に取り組む。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①一人ひとりの生徒理解を基本とし、生徒指導や教育相談体制を充実させ、より安心して学べる場となる学校をつくる。</p> <p>②教育活動全般に道徳教育を推進し、道徳的心情と道徳的判断力を育む。</p>	<p>①安心して学べる学習環境を維持するとともに、教育相談体制を充実させ、関係機関と連携を密にし、学校生活を支援する。</p> <p>②各活動において状況に応じた言動や判断ができる態度を育成し、キャリア教育の視点を踏まえた指導体制を構築する。</p>	<p>①校内巡回を徹底するとともに、日々の巡回状況をデータ化し、全職員がリアルタイムで情報共有できる体制を構築する。様々な問題を抱える生徒に寄り添うための教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②各活動においてルールや規範意識の育成のため、年次団、各グループと連携を強化し、キャリア教育の視点で指導を行う。</p>	<p>①巡回情報をデータ化し、全職員が情報共有する体制ができたか。特別指導の件数を減らすことができたか。教育相談体制を充実させ、いじめが疑われる相談件数を減らすことができたか。</p> <p>②学校のルールや交通ルールを守るなど規範意識を育成し、命の大切さを伝えることができたか。</p> <p>年次団、各グループと連携し、キャリア教育の視点で指導できたか。</p>	<p>①校内巡回を毎時間行い、記録をデータ化し、継続指導に役立てた。データはデイリーで共有できる体制をつくりあげた。情報は特別指導件数の減少化と教育相談に大いに役立てることができた。</p> <p>②休業中および登校再開時に通知、放送、教室巡回により、命の大切さ、ルールの遵守を呼び掛けた。交通安全教室を開催し、年次団、他グループと連携し、学校単独で「交通事故ゼロ運動」を開催した。</p>	<p>①今後も、生徒が安心して学べる学習環境を維持できるよう、校内巡回に取り組み、データを大いに活用していきたい。</p> <p>②今年度は、例年と違う対応を迫られることが多かった分、不安定になる生徒への寄り添った指導が課題であった。</p> <p>生徒指導における教員の知識と技術の向上を図るとともに、年次団や他グループとの連携強化をさらに進めていきたい。</p>	<p>・校内巡回の成果が出ている様子であり、先生方の努力に敬意を表する。</p> <p>・コロナ禍で新たな課題も出ているのではないかと引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。</p> <p>・校内巡回を通して常に先生方の姿を生徒に見せることで「安心して学べる環境である」ことを発信していることは大いに評価でき、勇気づけられている生徒もいるので継続指導をお願いしたい。</p> <p>・ルールとマナーの確立、自他の尊重と好ましい友人関係の構築の他、不安定な生徒への寄り添い支援などの活動を評価する。</p> <p>・一人ひとりの生徒の特性・課題に応じたきめ細やかな指導をお願いしたい。</p>	<p>①校内巡回を徹底することで、生徒の安心・安全を保障する学習環境を保持することができた。また、データを共有することで複数の教員で生徒に対応し、教育相談体制の充実が構築でき、特別指導件数と相談件数が減少した。</p> <p>②いのちの大事さを伝える一方で、ルールを守らないことによって起こった案件もあり、呼びかけの方法は今後の課題である。</p>	<p>①校内巡回を継続していく中で、記録の取り方や方法は、より良い方法になるよう検討する。</p> <p>②生徒への寄り添った指導がさらにできるように、連携強化以外にも研修会開催などを検討する。ルールを守るための指導としては、定期的な点検を模索する等、改善に取り組む。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月書面実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導 ・支援	キャリア教育の一環として、道徳教育との関連性をもって、すべての教育活動において、生徒一人ひとりが社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる。	生徒一人ひとりの職業観の育成に取り組み、希望する進路実現のために必要な支援を行うことで、進路希望を実現した生徒の数を増やす。	多様な生徒の状況に応じたきめ細かい指導を実現するために、進路カルテを活用し、年次団とグループが密接に連携する。 生徒一人ひとりが自分の個性や適性を理解する機会を増やすため、進路ガイダンス等と面談を充実させる。	進路カルテを活用し、きめ細かい指導を実現できたか。 進路ガイダンス等と面談が充実したか。自分の個性や適性を理解する機会を増やすことができたか。 卒業時の進路決定率が昨年度の73.3%を超え80%以上であったか。	進路カルテの標準書式を目指したが情報収集し検討段階で終わってしまった。卒業予定者の進路ガイダンスや面談は年次団との連携により充実した指導ができた。 卒業時の進路決定は47.1%で80%の目標は達成できなかった。(2/10現在)	進路カルテの標準書式は新年次団結成後速やかに進めたい。 進路決定は例年どおり3月末まで年次団と協力し支援していく。 来年度もコロナ禍の影響で厳しい状況が予想されるので、外部の力も活用し、早めの活動を進めたい。	・コロナ禍においても適切な進路選択がかなうよう指導・支援願いたい。 ・きめ細かい指導・支援がもっとも大切である。 ・オンライン面接等、新たな対応も出てきている。「進路カルテ」等引き続ききめ細かい進路指導・支援をお願いしたい。 ・コロナ禍で厳しい状況の中でもきめ細やかな指導がされており評価したい。 ・進路未定生徒へのフォローなど追跡指導にも配慮してもらいたい。 ・卒業後の進路決定率が目標に届かなかったことについて検証してもらいたい。	進路カルテは来年度入学生から中学校より届くので、入学後の活動にリンクし活用できる仕組み作りが重要である。 進路希望が決められた生徒はほぼ全員進路先が決定したが、卒業時の進路決定が決められない生徒が今年度は増加した。	新年次団と協議し面談期間までに共通の進路カルテを運用する。 卒業年次での進路の意志決定を、進路カルテ及び保護者との3者面談にて書面で確認し進める。
4	地域等との協働	周辺自治会および関連行政機関との連携を一層充実させ、教育力を向上させる。	周辺自治会および関連行政機関との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。	周辺自治会等と連携し、各行事で学校広報活動の推進を図るとともに、学校説明会、ホームページ等の充実を図る。	周辺自治会や外部機関との連携を図り、学校周辺の環境整備事業やその他の活動で3回以上連携できたか。	コロナ禍であったが、感染防止対策を図りながら地域貢献活動、昭和音楽大学・短期大学部「教職実践演習」、県立高校地域協働活動支援事業の3事業で連携を図ることができた。	社会情勢や実施日当日の天候などに影響を受ける事業であるが、連絡調整を密に進めていきたい。	・コロナ禍の中、ご努力有難うございました。 ・コロナ禍にありながら地域貢献活動等の連携授業を推進したことは評価できる。 ・活動の振り返りや地域等の反応をフィードバックして生徒の望ましい変容を肯定的に評価する取組に繋がれるとよい。	コロナ禍において、地域貢献活動、昭和音楽大学・短期大学部「教職実践演習」、県立高校地域協働活動支援事業の実施方法を工夫し、次年度も連携を図っていきたい。	活動を振り返り、地域等からの反応をフィードバックすることで、生徒の自己肯定感の育成に繋げていきたい。
5	学校管理 学校運営	①学校防災力を向上させ、自らのいのちを守る防災教育を実践する。 ②不祥事防止を徹底し、教職員の不祥事防止に取り組む姿勢を一層向上させる。 ③教員のライフワークバランスを推進するため教員の働き方改革を推進する。	①安全・安心で信頼される学校づくりを推進する。 ②生徒、保護者と教職員の信頼関係の強化と情報の共有化を図る。 ③長時間勤務を是正する。	①防犯・防災体制の構築、防災教育を徹底し、学校防災力の向上を図る。 ②関係グループと連携し、まちコミメール等で情報を発信する。 ③「ノー残業デー」を実施するとともに、勤務時間内の会議を徹底する。	①防災学習会や夜間防災訓練を実施し、周辺地域の防災拠点と防災対策について連携を強化できたか。 ②保護者への情報発信および受信体制が昨年度以上に確立できたか。 ③月2回以上「ノー残業デー」を実施できたか。勤務時間を超えずに会議を行うことができたか。	①前期・後期に防災学習会を実施することができたが、コロナ禍の影響で地域の防災拠点との連携を図ることを控えざるを得なかった。 ②全生徒にClassroomでの情報発信体制を整備することができた。保護者への情報発信体制については、登録者が昨年度比約20%増加した。 ③衛生委員会から、働き方改革の視点で長時間労働の是正について呼び掛けた。年間を通じて勤務時間を超える会議はなかった。日々「ノー残業デー」という意識で運営することができた。	①社会情勢の影響で、周辺地域との連携が取り辛い状況であった。終息した暁には、これまで以上に連携をしていきたい。 ②保護者の受信体制が72%と、100%となっていないので、面談などの機会を活用して登録を進めていきたい。 ③各グループや教職員一人ひとりに勤務時間を意識した職務遂行を引き続き啓発していきたい。	・オンラインの活用により、学習やコミュニケーションの取り方など、教育での活用が進展するので、さらに進められるとよい。 ・引き続き働き方改革をすすめる、全職員で協力してもらいたい。 ・コロナ禍の中、中止となった行事等も多かったと思う。生徒のために引き続き教育活動の充実にも努めてもらいたい。 ・全生徒に情報発信体制を整備できたことは評価される。 ・保護者への情報通信体制の整備も着実に進んでいる様子うかがうことができ、好ましい。 ・HPによる学校広報活動も一層活発にして開かれた学校づくりを進めてもらいたい。 ・生徒一人ひとりが抱える課題に寄り添い、確かな成長を支援するための指導をお願いしたい。	①前期・後期に防災学習会を実施することができたが、コロナ禍の影響で地域の防災拠点との連携を図ることを控えざるを得なかった。次年度は連携方法を検討し実施したい。 ②全生徒にClassroomでの情報発信体制を整備することができた。保護者への情報発信体制については、登録者が昨年度比約20%増加した。 次年度は、登録機会を増やしたい。 ③衛生委員会から、働き方改革の視点で長時間労働の是正について呼び掛けた。年間を通じて勤務時間を超える会議はなかった。 日々「ノー残業デー」という意識で運営することができた。	①地域の方にインタビューを行い、オンラインを活用して、ビデオ学習を取り入れていきたい。 ②保護者への情報発信のため、1年次は入学式で登録を進めていきたい。 上級生は、登録のお願いなどのお知らせをふた月に一度行っていきたい。 ③働き方改革の視点で、次年度も日々「ノー残業デー」という意識で運営していきたい。